

## 学問中心地としての アメリカ大学院とその形成条件

( )  
奥川 義尚

アメリカは先進諸国のなかでも、大学院レベルの教育・学術研究が最も普及している国の一つであるが、その特徴とは何かについて、まず学術研究との関係を中心に考察してみる。研究能力からみた「教授陣の質」の指標によりアメリカ大学院をランキングしてみるとマサチューセッツ工科大学とカリフォルニア大学（パークリー校）の優位さがわかる。以下、ハーバード大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、カリフォルニア工科大学の順になっている。マサチューセッツ工科大学とカリフォルニア大学（パークリー校）は総合評価が第1位であるだけでなく、マサチューセッツ工科大学は5領域の内、人文科学系、生物科学系、工学系の3分野において、またカリフォルニア大学（パークリー校）は数学物理系の分野において最上位の位置を占めている。また「教授陣の質」を、学問領域間の相関係数によって確かめてみると、大学単位でみれば、いずれの学問領域についても相互にかなり高い相関関係を示している。教授陣の質に関する学問領域別相関については、相関係数が最も小さいのは人文科学系と工学系だが、0.666であるのでかなり高い。つまり教授陣の質を主観評価指標のみでとらえた場合には、アメリカの大学院における「教授陣の質」は、ある特定の学問領域において優位であれば、他の学問領域においてもすぐれている傾向がある。いいかえれば、上位にランクされている大学に設置された大学院には、大部分の学問領域において質の高い教授陣が集められているといつてよいであろう。

次に学術研究についての特徴を、アメリカ大学院の全体像で考察してみる。研究能力を示す「教授陣の質」の総合評価でみれば、60点以上のカテゴリーに属する大学は、マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア大学（パークリー校）、ハーバード大学などの17校である。調査対象校全体をみれ

ば50～60点未満のカテゴリーには、カリフォルニア大学（サンフランシスコ校）を含めた63校が、40～50点未満のカテゴリーには、ノートルダム大学を含めた131校が、また40点未満のカテゴリーには、ラトガーズ州立大学（ニューワーク校）を含めた63校が属する。この様に7割ほどの約190校以上の大学は50点未満のカテゴリーに含まれる。したがってアメリカの大学は、大学院の学術研究からみると、ピラミッド型のヒエラルキーな序列構造を示している。さらに継続的に課程修了者をだしている博士課程を有する大学のみだけでなく、考察を広げて博士課程を有するすべての大学を分析の対象にすれば、50点未満のカテゴリーに属する大学数はさらに多くなるだろう。

また教育能力を示す「大学院教育の有効性」に関する主観評価の結果にもとづいて、大学院を序列化した結果を、総合評価の上位校についてみると「教授陣の質」による評価と同様に、マサチューセッツ工科大学の圧倒的な強さがわかる。以下、カリフォルニア大学（パークリー校）、プリンストン大学、カリフォルニア工科大学、スタンフォード大学、ハーバード大学の順になっている。さらに興味深いのは、研究能力と教育能力に関する主観評価の結果は非常に似通っている。つまり「教授陣の質」と「大学院教育の有効性」は、専門課程の異なる側面を評価しているにもかかわらず、評定者の眼を通してみた大学の序列は、ほとんどかわらないのである。すなわちアメリカの大学院においては、教育と研究の両面で優秀かどうかを常に問われているのである。また「大学院教育の有効性」を学問領域別の細分化し相関係数によって確かめてみると、相互にかなり高い相関関係を示している。大学院教育の有効性に関する学問領域別相関については、相関係数が最も小さいのは人文科学系と生物科学系だが、それでも0.546でかなり高い。このことから、ある学問領域において「大学院教育の有効性」が高く評価されている大学は、他の領域においても、その大学院教育の評価が高い傾向がある。

おくがわ よしひさ（教授・高等教育論）